

令和元年度 舢倉島夏期総合診療実施報告書

令和元年8月7日
舢倉診療所長 金子 裕一

令和元年度の舢倉島夏期総合診療は石川県、輪島市の共催により令和元年8月3日（土）、4日（日）の両日にわたり実施されました。関係者の方々のご尽力により予定通りの日程で無事に終了しました。お力添えをいただいた関係者の皆様に深く感謝するとともに、ここに本年度の実施状況を報告致します。

1. 趣旨

専門医療の機会に恵まれない離島の住民に対して「耳鼻咽喉科、整形外科、内科、特定健診、大腸癌検診、前立腺癌検診」診療を実施し、もって舢倉島住民の保健医療の向上を図る。

2. 日程

令和元年8月3日（土）午後1時～午後5時
8月4日（日）午前9時～正午

3. 診療科目、場所

石川県輪島市海士町所属舢倉島出邑山1-4 舢倉島総合開発センター

耳鼻咽喉科：コンピュータ室

内科：診察室、保育室

整形外科：会議室

特定健診：研修室、事務室

大腸癌検診：受付ロビー

前立腺癌検診：受付ロビー、研修室

受付：玄関ロビー

4. 診療従事者

耳鼻咽喉科	小森 貴	医師（小森耳鼻咽喉科医院）
	北川 伶	看護師（心臓血管センター金沢循環器病院）
整形外科	庭田 満之	医師（国下整形外科医院）
内科	堀田 祐紀	医師（心臓血管センター金沢循環器病院）
	額谷 文絵	看護師（心臓血管センター金沢循環器病院）
特定健診	浜高 康夫	臨床検査技師（市立輪島病院）
	谷 賢之	臨床検査技師（市立輪島病院）
	定見 三紀	管理栄養士（市立輪島病院）
	谷内 正和	庶務係長（市立輪島病院）
レントゲン撮影	田上 香織	放射線技師（市立輪島病院）
血圧測定	佃 恵美子	看護師（県立中央病院）
	瀧上 美江子	看護師（県立中央病院）
受付	木村 蓉子	看護師（市立輪島病院）
	村田 大介	専門員（県庁地域医療推進室）
	永本 菜月	主事（県庁地域医療推進室）
	寶珍 美月	主事（県庁地域医療推進室）
診療補助	上野 洋誉	医師（県立中央病院）
	小村 茉穂	医師（県立中央病院）
運営	金子 裕一	医師（舢倉診療所）

5. 受診状況と問題点・今後の改善案

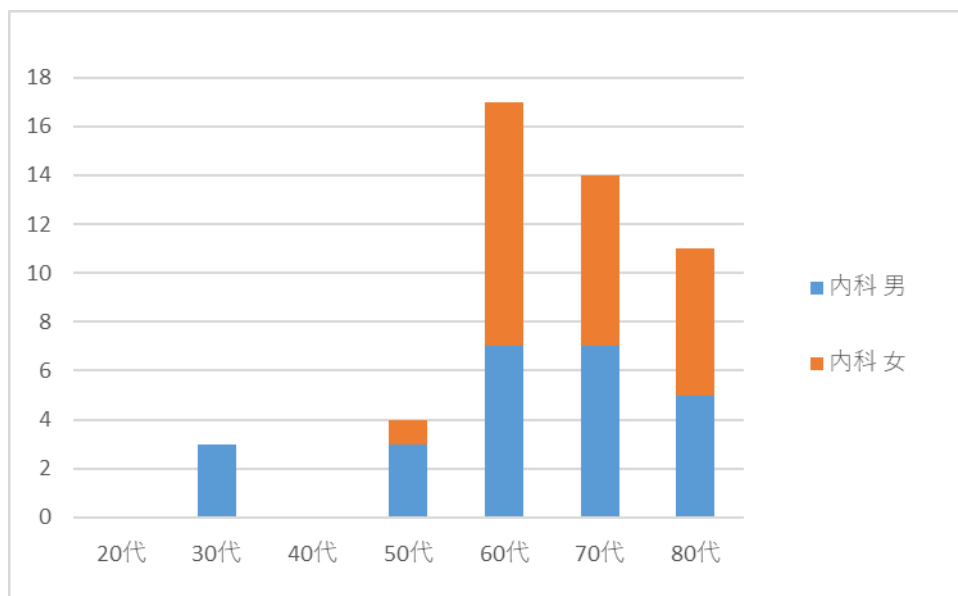
令和元年度は、のべ人数 145 名、実人数 51 名の方が受診された。各科の受診件数を下記に示す。

	内科	耳鼻科	眼科	特定健診	大腸癌 検診	整形外科	前立腺癌 検診	合計
令和元年度	49	20	中止	30	21	10	15	145
平成30年度	50	24	中止	30	24	中止	19	147
平成29年度	49	13	14	33	26	none	19	154
平成28年度	41	21	13	34	25	none	16	150
平成27年度	52	20	19	38	28	31	20	208
平成26年度	40	20	16	28	16	32	None	152
平成25年度	46	27	14	17	None	35	None	139
平成24年度	46	23	8	18	None	None	None	95

※ 整形外科は8月4日のみ

全体の傾向としてはのべ受診人数、実人数は共に減少した（実人数：平成30年度56名⇒令和元年度51名）。受診人数は特定検診を除くすべての項目で減少しており、増加した項目は認めなかった。のべ受診人数、実人数が共に減少したのは、島民自体の減少も一因であろう。前立腺癌検診受診者の減少に関しては、これまでの前立腺癌検診の結果からすでに適切な医療機関への紹介・フォローがなされているため減少に転じたことも一因と考えられる。これまでの検診で特定健診と大腸癌検診に関しては、受診者は減少しているが、一定の人数は受診しており、今後も必要となることが予想される。以下で各科の受診状況について考察する。また、各科の受診状況をグラフにまとめたので参考にされたい。

<内科>

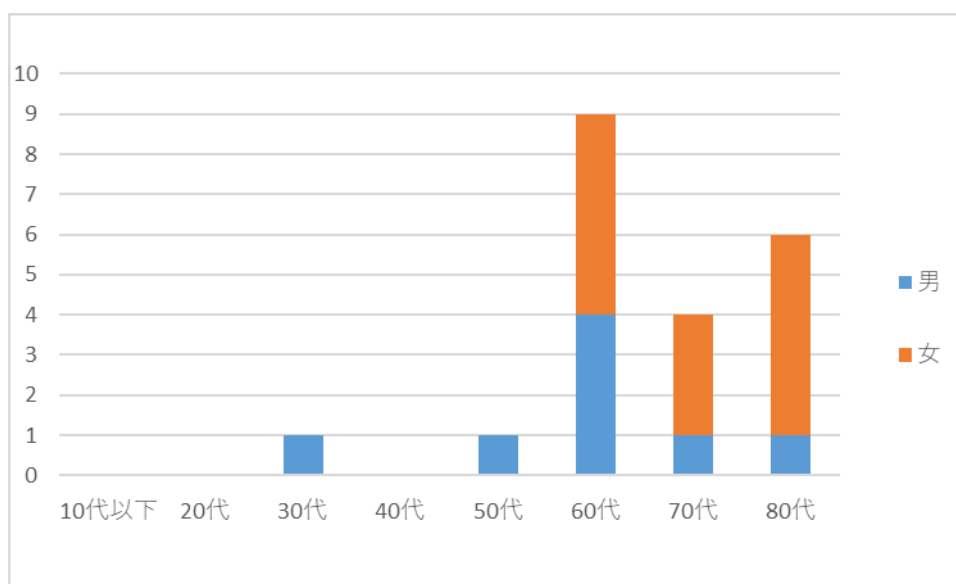


内科は前年度同様50歳以上の年代で高い受診率を示している。今年度は前年度より1名の減少となったが、島民の減少の影響がその一因と考えられる。今年度は30歳代の若年層の受診者も得られているが、島民は喫煙や飲酒などの生活習慣の乱れが目立ち、若い年代でも健診を行う意義は大きいと考えられる。実際、以前の内科検診で30歳代でも異常を認めた方もいることから、今後若い年代も積極的に健診受診を勧めていくべきと考える。

一方、島民の高齢化が進んでおり、心疾患の罹患率は増加している。年一回の貴重な機会なので、既往

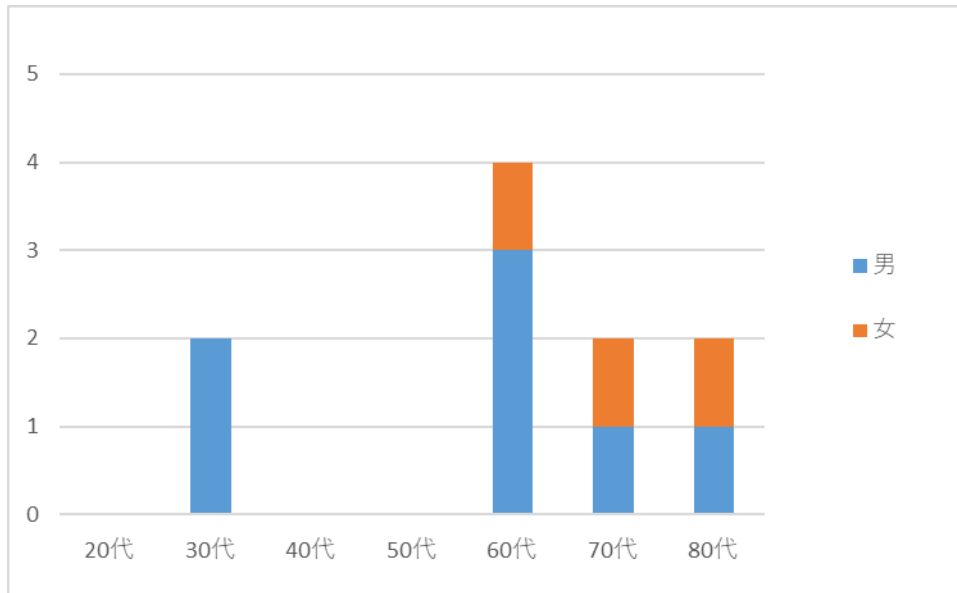
歴や日常診療での会話の中で、少しでも内科健診を受ける意義があると思われる方には積極的に健診での内科受診をすすめた。また代々所長によって受け継がれる島民サマリーに加え、専門医の先生に相談したい点に関しては別紙にて提示し、診療の御指導を頂いた。特にフォローアップカテの時期や昨今問題となっているポリファーマシーを改善するために服薬内容に関する御意見を頂いた。普段専門的な検査を受ける機会の少ない島民にとって年一回の内科健診によって、心疾患が初期の段階で発見されることも多く、今年度も精査が必要な方が認められ、とても有意義な健診であったと考えられる。当診療所では、任期が半年であり島民の経過を一人の医師で追うことが出来ないが、島民一人一人のサマリーを代々の医師が書き足しながら作成しており、今後もサマリーの日々の更新を続けることで、患者情報の正確な引き継ぎとフォローアップを行っていかねばならない。

<耳鼻科>



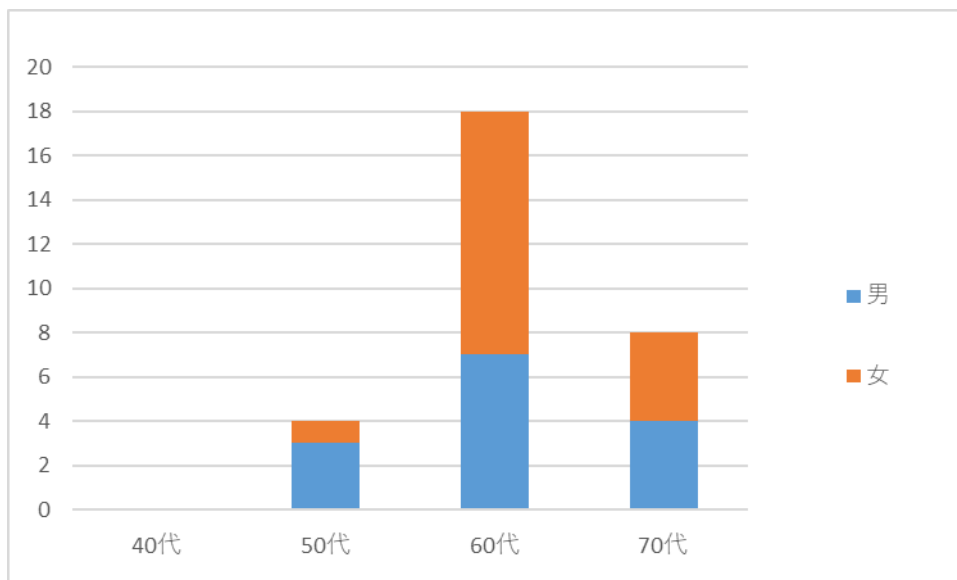
今年度は前年度に比べ、受診者は4人減少した(平成30年度24人⇒令和元年度20人)。例年通り女性の受診者の方が多かった。これは海女漁という舩倉島特有の背景を反映しており、海女は潜水による耳の問題をかかえていることが多い。一昨年度の反省に、男性に関しても喫煙者が多く、喉頭癌のスクリーニングが必要なため受診を促す努力が必要という記載があり、前年度はこれを受けて健診前の島民への呼びかけが強くなされている。喫煙者は喉頭癌のリスクがあるため、耳鼻科受診が必要という旨を伝えたことにより男性でも耳鼻科受診を希望される方が増えている。前年度に喉頭癌のスクリーニングを受け、異常を指摘されなかった方の一部が今年度は受診しなかったため、受診者数減少に転じた可能性が考えられる。依然として喫煙者が多いため毎年の耳鼻科受診の呼びかけは継続が必要と思われる。

<整形外科>



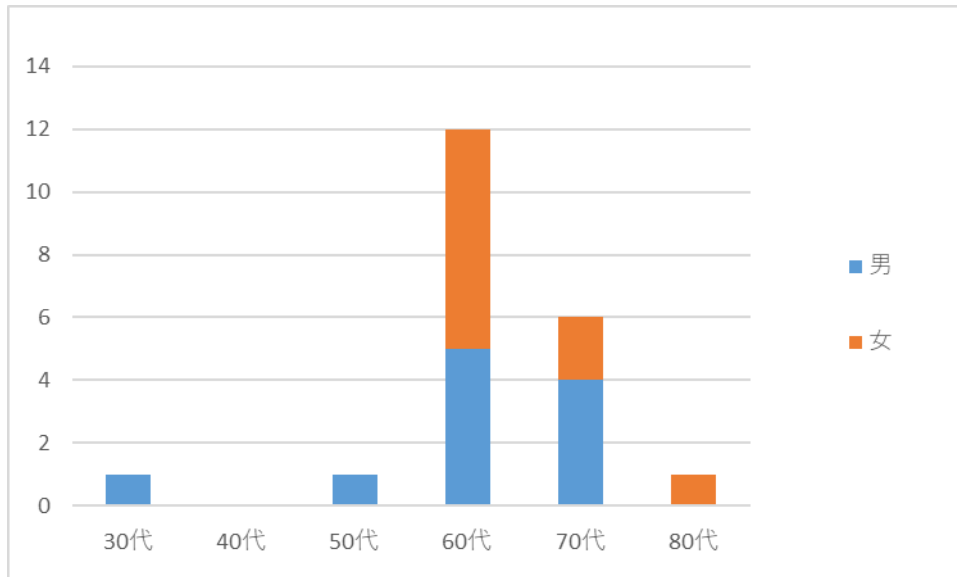
整形外科は平成 27 年以來 4 年ぶりであり、今年度の受診者は 10 名であった。平成 27 年度は 2 日間実施し 30 名の受診者であったが、今年度は 2 日目のみの実施であったこともあり、受診者は大きく減少した。しかし島民には高齢者も多く、整形外科の需要は少なくないと思われる。一方で受診者減少の理由としては 4 年間整形外科検診が実施されていなかったことで、輪島病院など診療所以外の医療機関で既に診断・治療がなされている方が多いことが一因と考えられる。力仕事を生業とする島民を数多く有するこの島では、やはり重要な診療科と思われる。

<特定健診>



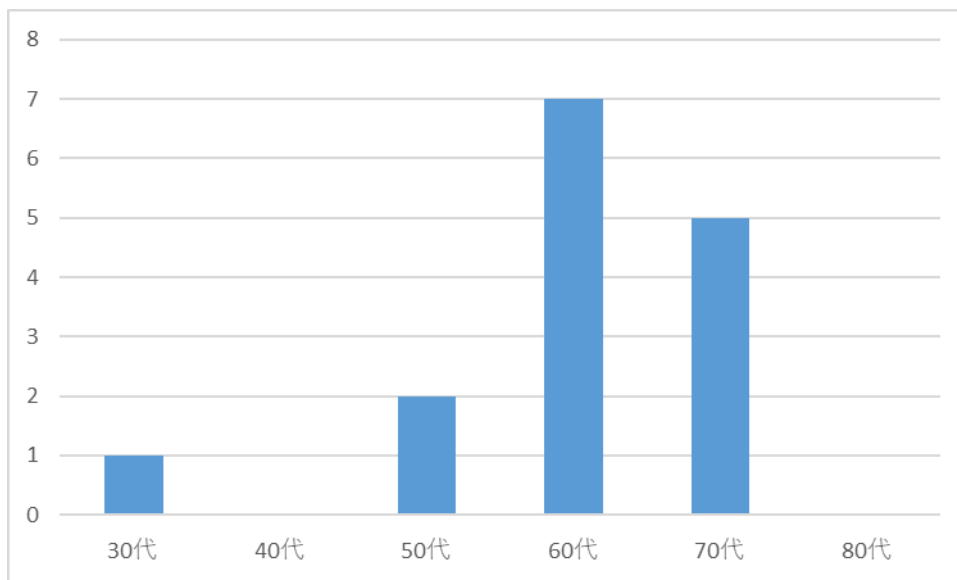
特定健診の受診者数は 30 名であり前年度と同受診者数であった。普段通院されていない島民にとっては、年に 1 回の特定健診は 1 次予防の機会としては重要であるため、この機会を活用して頂きたいと思う。今後も対象者全員の受診をめざし、島民台帳を参考に対象者への積極的な呼びかけを続けて頂きたい。

<大腸癌検診>



前年度に続いて行った便潜血検査による大腸癌検診は 21 名とわずかに減少した（平成 30 年度 24 人⇒令和元年度 21 人）。受診者が減少したのは、島民の減少と以前に便潜血陽性となり毎年上下部内視鏡を施行している方が増加したことによるだろう。2 日間にわたって島民自身で便を採取しておく必要があるため手間がかかるが、胃カメラを施行していない現在において、侵襲が少ない検査でもあるため、今後も是非継続して頂きたい。ただ、上手く便を採取できず、当日中止となった方もいたため、特に高齢者では採取方法を丁寧に指導する必要があるだろう。

<前立腺癌検診>



PSA マーカーを用いた前立腺癌検診は 15 名と受診者数は減少した。特定健診や内科の採血で同時に施行できることもあり簡便なため多数の方が受診された。一方で減少した理由としては、これまでの前立腺癌検診で異常が指摘されたため、すでに泌尿器科へ紹介・フォローされていることがあげられる。普段泌尿器科的な診察を受けることが出来ない島民において、近年増加傾向の前立腺癌をスクリーニングすることは極めて重要と思われる。IPSS スコアを同時につけることによって、前立腺肥大症の患者もスクリーニングすることが出来今後も継続していく事が望まれる。

6. 各科診療内容

<内科>

前年度より引き続き、内科健診は心臓健診として堀田医師に担当して頂いた。島の高齢化および高血圧・糖尿病罹患率の高さより、循環器疾患合併者が多く、専門的視点からの診療がますます重要になってきている。H21年度から実施しているが、毎年大好評であり、今年度の受診者は、前年度よりわずかに減少したものの、49名と例年に比べても多くの受診があった。実人数が減少していることを考えれば、内科健診の需要は極めて高いと考えられる。小村医師には堀田医師の診療補助について頂いた。受診希望の島民にはできるだけ事前に胸部レントゲン撮影と心電図記録をしておき、また当日は身長、体重、血圧測定（左右）を施行し、日々の診療と処方内容確認のため、全例島民サマリーを参照頂いた。またサマリーに加え日常診療において特に相談したい点がある方に関しては紙カルテに付箋を貼り、御指導を頂いた。基礎疾患の有無に関わらず全例に心エコー検査を施行し、精査頂いた。本年度は下肢ドップラーの準備に不備があったため行うことができなかった。

今年度も事前に心電図をとりきれなかった方のための記録場所を内科診察とは別に設けた。今年度はレントゲン撮影と同じ部屋での整形外科検診を予定していたため、前年度と同様に心電図は保育室とした。一昨年度まではレントゲン撮影と同様の場所(レントゲン室)で心電図を施行していたが、前年度は場所が違ったため、両方行う必要がある人はどちらから受ければよいのか迷ってしまったとの反省であった。前年度の配置を継続したこと、検診までに9割近くの受診者の心電図、レントゲン撮影を終えることができていたことなどの理由で、検診当日はほとんどの受診者が比較的スムーズに内科診察へと移ることが可能であった。

結果では、異常所見として弁膜症、心肥大、不整脈、上肢血圧左右差、慢性心不全の増悪などが挙げられる。そのうち1名の方がMDCTを施行することとなった。不整脈のある方の今後の薬物治療の方針や弁置換術後の方やカテーテル治療を受けた方の治療後のフォローアップなど、専門的視点から治療方針の御指導を頂いた。

<耳鼻咽喉科>

耳鼻咽喉科は昭和58年度から今年度に至るまで毎年総合診療に参加して頂いている小森医師に担当して頂いた。総合診療全般においても様々な面で支えて頂いている。診療内容は喉頭ファイバーでの咽喉頭の観察、および鼻腔内、耳腔内の観察等である。舂倉島住民の女性のほとんどは海女であり、かつてはサーファーズイヤーズ（外耳道の変形）や外耳炎が多くみられたが、小森医師によりシリコン性の耳栓が導入され、以降、サーファーズイヤーズの進行は止まっているとの事で、島の海女にとって必要不可欠なものとなっている。また耳鼻科健診は喉頭癌検診もかねており、島民の喫煙量は多く、高齢化も進んでいることから、年一回の受診の機会は非常に重要と考えられる。今年度は事前の呼びかけにより、男性の方にも多く受診頂いた。しかし、喫煙量が多いにも関わらず、受診されていない方がまだまだ多いのも事実である。そもそも島民には耳鼻科は耳と鼻という認識があるように思われ、喉頭癌検診でもあることを、今後周知させていくことで、受診率が高まると考えられる。そのためには、診療所だよりなどで耳鼻科という表記ではなく、耳鼻咽喉科という表記にするのが良いかもしれない。また、笑いにあふれた診療風景から、長年この総合診療に参加して頂いている小森医師と患者間の厚い信頼関係がみられた。事前の調査では小森医師が来られるから受診するという声もあり、小森医師が健診に来て下さることの島民にとっての重要性が専門的医療を超えたところでも伺えた。

20名の受診者で異常所見の内容は外耳道炎、鼻茸、老人性難聴、騒音性難聴、亜鉛欠乏による味覚障害などであった。普段はふれる機会の少ない専門的な視点から今後の治療方針の御指導をして頂いた。また、今年度はオージオメーターによる聴力検査を行った方が3人おり、診察に役立った。

高齢者や喫煙者はもちろんのこと、島には若い海女もおり、今後は若い世代への健診受診も促し、将来

のために、耳栓の使用方法や、有症状時の対応の仕方などを聞く機会としても健診の場を活用して頂くことが、健診をより有意義なものとするために重要であると考えられた。

<整形外科>

整形外科は、庭田医師に担当して頂いた。島民の高齢化が進み、肩・腰・膝などの痛みを訴える島民が非常に多く、日常診療では的確な治療およびアドバイスが行えていないと思われた為、平成 20 年から実施されている。平成 28,29 年度は庭田先生が輪島病院勤務であったこともあり、整形外科検診は見送られていた。また前年度は悪天候のため実施することができなかった。

以前同様、レントゲン室で問診を行い、適宜レントゲン撮影を施行して一人一人の症状にあわせた生活上の注意やアドバイス、治療を行った。レントゲン撮影は市立輪島病院の田上放射線技師にご協力頂き、スムーズで質の高いレントゲン撮影を実施する事ができた。所長自身、整形外科領域の撮影はやはり困難で上手に撮影できない事も多々あり、大変有意義であった。

受診者 10 名で、膝関節・肩関節症、肩関節周囲炎、腰椎すべり症、ばね指などが認められた。処置や注射を実施された方は 4 名であった。その他にも対症療法（内服加療）を提案して頂き、詳細な生活指導・リハビリ指導なども含め、専門的なアドバイスを頂いた。受診者にも非常に好評であり、来年度以降も是非整形外科診療を継続して頂きたいと切に願っている。

<特定健診、保健指導（栄養指導）>

昨年度に引き続き、今年度も輪島市の特定健診を舳倉島総合診療の一部として開催した。対象者は国民健康保険、船員保険加入者の 40～74 歳の方で、実施項目は問診、身長、体重、腹囲、血圧測定、検尿、血液検査、保健指導（栄養指導）である。市立輪島病院谷内庶務係長、浜高臨床検査技師、谷臨床検査技師、定見管理栄養師にご協力頂き、保育所を使用し、測定・採血、保健指導を行った。

受診者は女性 14 名、男性 16 名であった。昨年同様、特定健診の受診者には普段診療所や病院を定期受診する機会のない方たちもおり、特定健診の意義は大きかったと考えられる。普段健康に心配のない方でも特定健診だけは受診するという方も少なからずみられた。実人数の減少、高齢化に伴う 75 歳以上への移行の割に、特定健診の受診者はほぼ横ばいであり、島民の健康意識の向上が感じられた。

今年度は健診当日の保健指導を定見管理栄養士に担当して頂き、栄養指導を中心的に御指導いただいた。日常診療で食生活を改善したいと考えているが、どう改善すればよいか分からないという島民の声は非常に多く、昨年度の検査結果や島民サマリーなどを活用し、専用のパンフレットを利用しながらの分かりやすい丁寧な栄養指導は、島民にとって非常に有益であったと考えられる。ぜひ来年以降も栄養指導を継続して取り入れていただきたい。

特定健診では事前に受診票がないという方を抽出し再発行していただいた。例年、受診票や保険証を輪島に置いてきてしまう人が少なからずおられるので今年度も早めから広報を行ったため、予定者は全員が無事特定健診を受けることができた。今後も「受診票は住民票のある方の家に届くため、受診の為に必ず持ってきてもらう。保険証とともに一度島で確認し、分かりやすい場所に保管しておく」ということを一人一人に広報する必要がある。

<大腸癌健診>

昨年度に引き続いて大腸癌のスクリーニング検査として便潜血検査を実施した。事前に広報し、希望者を募っての検査であり、便を採取するのに 2 日間かかること、自分で便を採取することの煩雑さがあるにも関わらず、検査人数は 21 人を得られた。以前に検診で異常を指摘されて大腸内視鏡検査を定期的に受けられている方は大腸癌検診を受けていないこともあり、大腸がんのスクリーニングをしている人自体が減少している。ただ、自分で便を採取することが難しく、中止とされた方もおり、来年度以降は丁寧な指導が

必要と考えられる。今年度受診した 21 人のうち異常を認めた方はいなかった。それぞれの病院の地域連携を活用することで、診療所から事前に検査予約を取ることが可能であるため患者本人が検査予約の為に離島する必要が無くなった。今後も診療所から予約をとることが島民の負担を減らし、検査へのハードルも下がると考えられる。

以前の検診で大量の海藻摂取で偽陽性となることがわかっており、検体の容器を配る際に海藻の摂取を控えるようアナウンスを行った。島民の大腸癌検診への関心は非常に高く、舢倉島での高齢化・喫煙率の高さ・大腸内視鏡検査受診への敷居の高さを考慮すると、今後も島民全員の大腸癌健診参加を促す働きを進めていくことが重要である。

<前立腺癌検診>

昨年度に引き続いて PSA マーカーを用いた前立腺癌検診を実施した。特定健診と同時に採血を行える簡便さもあり、受診者は男性だけの対象であるが 15 名を確保することが出来た。その中で癌の疑いがあり精密検査を必要とした人はいなかった。昨年同様 cut off 値を全国的に用いられている 4ng/ml と設定した。1ng/ml 以上の方は今後も PSA 値を follow していく方針とした。

また、問診票で IPSS スコアも記録しており、前立腺肥大症のスクリーニングにも有効であると考えられる。排尿関連の症状を訴えられる島民は多く、そうした人を積極的にスクリーニングし専門医へ紹介するために有用であった。実際、健診で IPSS スコアが高かった人が 3 名（9 点以上）おり、専門医への受診を勧めた。今後も毎年でなくても良いと思われるが、定期的に続けてほしいと思う。

7. 反省点

1 日目終了後に反省会が行われ、様々な意見が交わされた。以下はその要点とそれに対する所長の私見およびその他の問題点である。来年度以降の実施に役立てて頂ければ幸いである。

① 受付・待合の問題点と対策

昨年同様、開始前より受診者が殺到し、開始直後には案内などで混乱を生じる事も見受けられた。しかし、診療科ごとの受診予定者リストにより大きな混乱は生じなかった。事前に大半の受診者の心電図、胸部 X 線が施行されていたことも、スムーズな誘導に繋がったと考えられる。今年度は検診項目の優先順位を設定したため、案内時の混乱は比較的軽減されたと思われる。今回は口頭での説明であったが、来年度以降はスタッフ全員を配布し全診療の流れを健診開始前に説明することを検討してもよいかもしれない。

また前年度は書類の回収に関しても混乱があったとの指摘があったため、今年度は各診療科にカルテファイル回収用の箱を用意し、診察が終わった段階でそれらに収納することを全員に周知した。また新たに特定検診用のファイルを作成した。整形外科・耳鼻科に関しては問題なくカルテファイルの回収が可能であった。しかし特定検診用ファイルを内科カルテファイルに収納し、そのまま内科で回収してしまう事例が多く見られたため、特定検診用ファイルの回収に関しては再度検討が必要だろう。来年度は特定検診ブースにも箱を用意し、特定検診が終わった段階でファイルを回収してもよいかもしれない。

② 設備上の問題と対策

機器の使用（耳鼻科のファイバー使用+胸部レントゲン+遠心分離機の使用）が重なるとブレーカーが飛ぶ危険がある事が H24 年度より判明している。耳鼻科のファイバーの使用と胸部レントゲンは部屋も隣同士なので耳鼻科健診の補助スタッフが確認しながら使用時間が重ならないように注意する必要がある。H29 年度は遠心分離のタイミングは気にせず使用していたが、ブレーカーが落ちることは無かった。来年度以降も耳鼻科ファイバーと胸部レントゲンスタッフの声掛けで機器の使用が重ならないようにすれば問題は生じないと思われる。なお、今年度も小森医師により例年より細いファイバーをご持参頂いたため、より受信者に負担の少ない診療が可能となった。以前より使用している耳鼻科用椅子は使用可能な程度ではあるものの安定性・機能性が年々低下している。機会があれば新しい椅子の導入を検討してもよいかも

しれない。

内科に関しては、診療所のエコーが描出不良のため、前年度の検診より堀田先生にポータブルエコーを持参いただいている。実際に心エコーを用いて診察下さる堀田医師からも、新しいエコーの購入が必要、エコーが壊れていれば健診は成り立たないとのご意見を以前より頂いており、診療所のエコー機器の改善が望まれる。また今回石川県庁より心エコー用プリンターを持参頂いたが、モノクロ仕様であり、血流などの測定・可視化のためにはカラーが望ましいとの意見も挙げられた。今年度はドップラーエコーの準備ができなかった。検診に不可欠な物品であるため、来年度以降再度導入が必要である。

内科診察室、レントゲン室でレントゲン画像を閲覧できるモニターと PC が設置してある。しかし、検診 2 日目は内科診察室の PC が起動できなくなったため、内科・整形外科で 1 台のモニターを使用することになった。故障の原因・新モニターの設置なども含め、来年度さらなる検討が必要と思われる。

前年度指摘された 20cm 程度の段差のある体重計に関しては、今年度は使用せず、輪島病院より小さな段差の体重計を持参いただき使用した。また身長計が古く、目盛りの判読困難、機器の傾きにより正確な測定が困難となってきたため、新たな身長計の導入が望ましい。

③ 参加人数に関する問題と対策

今年度検診スタッフは前年度より 2 名少なく（前年度は金沢大学の学生スタッフが 2 名）、19 名であった。受付開始から検診開始直後は、所長が島民の案内をすることで混乱の解消に努めたが、同じ時間帯に受診者が集まらなかったために混乱を逃れたものとする。スタッフの数が増えるようであれば、案内係がいるとさらに誘導がスムーズになるかもしれない。

④ 特定健診・内科健診について

今年度も前年度と同様、すべての書類に日付記入欄を設けたため、以前の書類との混乱は見られなかった。また受付では昨年問診票を参考に問診しているとのことなので、健診前にファイルには前年度の問診票とカルテのみを残し、不必要なものは取り除いておく必要があると考えられる。

内科検診と特定検診の問診内容が一部重なっていたため、今年度は詳細な内容である内科検診の問診後、特定検診の問診を行い、無駄のない問診となるよう誘導した。昨年度までは重複する問診を嫌がる島民もいたようだが、今年度はそのような意見は挙がらなかったため、改善が見られたと思われる。また特定検診から保健指導へ移る基準を明示していなかったために指導が行われずに他の検診に移ってしまった方が数名いた。保健指導と特定検診スタッフにはあらかじめ、保健指導に移る基準を伝えることで確実な受診者の誘導が望まれる。

特定健診は広報での繰り返しの呼びかけを行ったこと、受診票を紛失した可能性のある方は全員受診票の再発行を行ったことから、特定検診は問題なく行うことができた。受診票の再発行は可能であるが、今後も 4 月から毎月の広報で受診票と保険証の持参を徹底することが大切である。また、事前に申し込み者を把握することで、各島民の保険の種類も確認することが出来た。島民の中には、船員保険の方もおり、別紙の受診票が必要な方もいた。今後も 7 月中旬までには受診者リストを作成し、市と協力し事前に確認することが必要である。

⑤ プライバシーについて

今年度も例年通りプライバシーの保護のための保護カーテンを使用して内科診察室の入り口に設置した。今年度特記すべき指摘は認めなかったが、特定健診の診察に関しては、腹囲測定などがあることから仕切りのある調理室で行ってもいいかもしれない。今後もプライバシーの保護には務めるべきであり、写真のみを今年度の区切り方を参考に来年度に活かして頂きたい。

8. まとめ

今年度で舳倉島総合診療は 38 回目となった。これまでこの総合診療が継続されてきたのは石川県、輪島市の協力があり、そして長年診療を支えてこられた先生方やスタッフの方々、さらには準備にご協力頂いた関係各位の情熱、ご尽力によるものである。この健診に対する住民の期待と信頼は大変大きく、専門的

な診療を受けられる総合診療は、舢倉島診療において根幹をなしていると言える。夏期舢倉島住民の人口構成を見ると、65歳以上が75%、75歳以上の後期高齢者が約40%と高齢化社会となっており、この地域特有の職業による潜水に伴う風土病に加えて、生活習慣病、心疾患、動脈硬化性疾患の予防・早期発見が重要な位置を占めてきている。また特定健診、保健指導、大腸癌検診、前立腺癌検診に関しては、これからの島を支える若年者中年者の健康保持・増進にアプローチできる良い機会であり、今後も継続することを切に願っている。住民のニーズを明確に見極め、医療や保健など各方面と連携をとりながら、今後も総合診療を行っていく事が舢倉診療所長に課せられた命題と考える。

9. 謝辞

今年度も無事に舢倉島夏期総合診療を行う事ができました。参加して頂いたスタッフの皆様、ご協力頂いた大変多くの関係機関、関係各位の方々にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。今年度は、無事船の欠航もなく、快く診療して頂き誠に有難うございます。この総合診療を通して、島民が自らの健康を意識する契機となれば幸いです。所長自身も日常診療を省みるとても良い機会となりました。今後の診療に今回学んだ事を十分に生かしていく所存です。またスタッフの皆様とお会いでき、とても充実した2日間を過ごす事ができました。所長そして島民一同深く感謝を申し上げます。

今後とも舢倉島島民の健康増進のためお力添えを下さいますようお願い申し上げます。

舢倉診療所長 金子 裕一

令和元年度診療スタッフ集合写真（R1.8.4 出航前の希海（のぞみ）前にて）

